

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月19日現在

機関番号：74305

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21320129

研究課題名（和文） 身分・身分的周縁と部落問題に関する地域史的研究

研究課題名（英文） Local Historic Research on the Social Status, the Marginal Status and Buraku Problem

研究代表者

鈴木 良（SUZUKI RYO）

社団法人部落問題研究所・研究員

研究者番号：10072703

研究成果の概要（和文）：「巨大都市大坂（大阪）とその周辺地域」「西日本各地域」「伝統都市京都とその周辺地域」「巨大都市江戸（東京）とその周辺地域」の4つの地域について、それぞれの社会構造とその変容について明らかにした。また、身分・身分的周縁に関する研究を深化させ、部落問題についてもその形成、展開から解決までに至る過程を実証的に明らかにするとともに、地域支配構造の発展についても究明した。さらに、近代の「行き倒れ」をめぐる歴史研究なども進展させた。

研究成果の概要（英文）：We set the four areas for the research; namely “megalopolis Osaka and its surrounding areas”, “areas in western Japan”, “traditional capital Kyoto and its surrounding areas”, “megalopolis Tokyo and its surrounding areas”. The research has clarified the change of social structures in those areas.

The research has deepened the study on the social status and the marginal status. The formation, development and the actual process of solution of “Buraku problem” has been clarified substantially, and the progress in the structure of local control has been studied.

In addition, the research has developed the historical study on “iki-daore”, the dead or the sick on the street, in modern days.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2010年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2011年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2012年度	2,500,000	750,000	3,250,000
年度			
総計	13,700,000	4,110,000	17,810,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、日本史

キーワード：身分、身分的周縁、部落問題、地域史、地域支配構造、地域社会構造

1. 研究開始当初の背景

(1) 部落問題を取り巻く状況の変化。

前近代以来の日本の伝統的な地域社会は20世紀後半の高度経済成長により終焉を

むかえ、その後世紀末から21世紀にかけてのグローバル化と新自由主義の下、地域社会そのものの崩壊・解体状況が進行した。

戦後社会の日本と世界における民主主義

の展開の中で解決（解消）過程に至った部落問題は、こうした状況のなかで最終段階へと到達した。しかし、「貧困と格差」の拡大、地域社会の解体によって生活や労働の基盤の喪失がひろがり、こうした深刻な状況を克服する課題に、「(旧)部落」の内外を問わず、日本社会が直面した。そうした課題を考えると、地域社会の総体の中で部落問題を把握することが一層必要となっており、また可能となっていた。

(2) 歴史学における地域史研究の進展。

①前近代史では、身分と身分的周縁の研究が進展していた。本研究に参加することになった塚田孝や吉田伸之らはこの研究を中心になって推進し、『身分的周縁と近世社会』全9巻（2006—2008年）など、既に具体的な成果を次々と発表していた。

そのこととも連動して、地域において多様な社会集団が形成する社会的諸関係の総体を解明する地域史研究も発展をみせていた。

②近現代史では、部落問題の解決という課題を見通しつつ、鈴木良が地域支配構造論を提起し、その成果を著書『水平社創立の研究』（2005年）として発表していた。

また、地域支配構造論研究とも連動しながら、近代日本の地域史に係わる多様な側面の研究を、竹永三男ら本研究に参加する近現代史研究者が進めていた。

(3) 以上の日本社会の大きな変動のなかにおける「部落問題」研究の必要性の高まりと、前近代史・近現代史における研究の進展を背景・前提として、本研究を開始した。

2. 研究の目的

(1) 主に近世史において身分的周縁研究とも連動して遂行されている地域史研究と、近代史における地域支配構造論研究などを接合して、前近代から近現代にいたる地域社会構造の一貫した把握をめざすこと。

(2) 「巨大都市大坂（大阪）とその周辺地域」「西日本各地域」「伝統都市京都とその周辺地域」「巨大都市江戸（東京）とその周辺地域」の4つの地域に即して、各地域の社会構造とその変容について、賤民身分と部落問題を主たる集約点として共同研究を進め、前近代から近現代日本の地域社会の重層的構造と各地域の相互関係を具体的に明らかにすること。

(3) 以上の研究をとおして、部落問題の形成、展開、そして解決に至る一連の総過程を実証的に明らかにすること。

3. 研究の方法

(1) 連携研究者の参加・協力を得て、研究分担者竹永三男、松尾寿の補佐もうけながら、研究代表者鈴木良を中心に研究を進める。

(2) 研究代表者・研究分担者・連携研究者が、「巨大都市大坂（大阪）とその周辺地域」「西日本各地域」「伝統都市京都とその周辺地域」「巨大都市江戸（東京）とその周辺地域」の4地域を単位とする共同研究のいずれか一つ以上に参加し、各地域の身分・身分集団と社会構造の分析を進める。

(3) 4つの各地域に即した共同研究の成果を、全体の共同研究会において共有する。

(4) 研究代表者・研究分担者・連携研究者は、各人の分担＝主題研究についても推進する。

(5) 以上を通じて得られた研究成果の一部を、その都度、部落問題研究者全国集会などの公開研究会や、部落問題研究所紀要『部落問題研究』での論文などのかたちで外部にも公開し、批判を仰ぐことでさらに研究を発展させる。

(6) 以上の研究推進のための実務補助や関係史料・図書の調査・整理などにあたる研究協力者として、若手研究者の参加・協力も得る。

4. 研究成果

(1) 「巨大都市大坂（大阪）とその周辺地域」「西日本各地域」「伝統都市京都とその周辺地域」「巨大都市江戸（東京）とその周辺地域」の4地域を単位とする共同研究、及び各人の主題研究。

①「巨大都市大坂（大阪）とその周辺地域」についての共同研究とともに、関連する各人の主題研究を進めた。

近世大坂については、塚田孝を中心に進め、その成果を、塚田が雑誌論文（後掲5、雑誌論文⑤⑨）のほか、「近世大坂における芝居地の《法と社会》」（同、図書⑦）、「近世後期・大坂における非人の「家」」（同、図書④）、「近世大坂の垣外仲間と四天王寺」（同、図書①）などの論考として発表した。

近代都市大阪に関する研究は、飯田直樹や佐賀朝らが進め、その成果が、飯田によって雑誌論文（後掲5、雑誌論文⑧）や「米騒動後の都市地域支配と方面委員の活動」（同、図書⑧）、佐賀朝によって「明治前期の「町村」—西成郡難波村の土地所有構造—」（同前）などの論考として発表された。

大坂（大阪）周辺地域では、藤本清二郎が紀州徳川藩領の賤民身分集団についての研究を進め、その成果を雑誌論文（後掲5、雑誌論文⑫）や著書『近世身分社会の仲間構造』（同、図書③）などで発表した。また、西尾泰広が大坂府南部・泉州の部落についての研究を進め、その成果を「戦間期における未解放部落の社会構造と地域支配構造」（同、図書⑧）として発表した。

②「西日本各地域」についての共同研究とともに、関連する各人の主題研究が進められた。

松尾寿は、隠岐流人に関する研究と、関連史料の調査を進め、史料のデジタル化をおこなった。

町田哲は、近世阿波についての研究を進め、その成果を雑誌論文（後掲5、雑誌論文⑪）として発表したほか、都市大坂とも関連させて進めた研究成果を「近世前期の祖谷山請負商人と大坂」（同、図書⑦）として発表した。

森下徹は、萩藩領の研究を進め、都市大坂とも関連した研究成果として「萩藩大坂蔵屋敷の成立」（後掲5、図書⑦）を発表した。また、「労働」社会の構造についての研究を周防徳山藩領に即して行い、その成果を雑誌論文（後掲5、雑誌論文⑬）として発表した。

③「伝統都市京都とその周辺地域」についての共同研究と、関連する各人の主題研究が進められた。

そのうち、三枝暁子は、研究成果の一部として、著書『比叡山と室町幕府一寺社と武家の京都支配』（東京大学出版会、2011年）を刊行した。

④「巨大都市江戸（東京）とその周辺地域」についての共同研究とともに、関連する各人の主題研究が進められた。

近世都市江戸については、吉田伸之らが研究を推進し、その成果として吉田が「北品川の寺社門前」（後掲5、図書①）などを発表したほか、著書『伝統都市・江戸』（東京大学出版会、2012年）も刊行した。

近代都市東京については、大日方純夫と佐賀朝らが研究を推進した。その成果として、雑誌論文を佐賀（後掲5、雑誌論文②）と大日方（雑誌論文③）が発表した。

また、周辺地域として、近世の信州下伊那地域についての研究を吉田ゆり子が進め、その成果として「信州下伊那地域における身分的周縁」（後掲5、図書⑦）、「人形芝居一芸能の担い手と地域社会」（同、図書④）、「信州下伊那の寺社と芸能者」（同、図書①）として発表した。

(2) 身分・身分的周縁に関する研究がますます深化した。

塚田孝は、(1)に記した近世大坂の非人に関する研究をもとに、賤民身分（集団）について、関東のあり方とも比較する研究を進め、その成果を第47回部落問題研究者全国集会全体会で報告して雑誌論文としても発表した（後掲5、学会発表⑤、雑誌論文⑩）、それをもとに著書『近世身分社会の捉え方』（同、図書⑥）を刊行した。

塚田孝、森下徹、吉田伸之らは「近世身分社会」をめぐる国際比較史にも研究をひろげ、鈴木良も参加し、海外からの研究者も迎えた共同討論「近世身分社会の比較史」が行われ、その成果が『部落問題研究』195輯（2011年）に掲載された。その中で、吉田伸之が総括コメント「身分・身分的周縁の比較類型把握」（後掲5、雑誌論文⑦）を発表した。

中世「身分」に関する研究も三枝暁子によって進められ、その成果として三枝が雑誌論文（後掲5、雑誌論文⑭）を発表した。

(3) 部落問題の形成、展開、解決の過程を明らかにする研究、及び地域支配構造の研究。①部落問題の形成、展開、解決の過程を明らかにする研究が、(1)(2)とも連動して、鈴木良を中心に進められた。その成果の一部として、鈴木が「歴史のなかの部落問題と解決過程」（後掲5、図書⑤）を発表した。

②地域支配構造の発展を明らかにする研究を、(1)(2)とも連動して鈴木良が、主に近代大阪に即して進め、その成果の一部を鈴木が第50回部落問題研究者全国集会全体会で報告した（後掲5、学会発表①）。

(4) 行旅病人・行旅死亡人（「行き倒れ」）についての研究も進められた。

竹永三男は、各府県における史料調査をもとに、行旅病人・行旅死亡人の実態とその救護・取扱について解明し、そのことから近代日本社会の特質に迫る研究を進めて、その成果を発表した（後掲5、学会発表③、雑誌論文④）。また、福島県での「行き倒れ」について分析し、その成果を発表した（同、学会発表②、雑誌論文①）。

(5) 本研究は、以上のような成果をおさめて、その大要を次項に掲げた発表論文等により広く公開することができた。

なお、本研究課題については、鈴木良と竹永三男が研究分担者として参加している科学研究費助成事業・基盤研究(B)「近代日本における地域社会の変貌と民衆運動に関する総合的研究」（課題番号24320135、研究代表者廣川禎秀、2012-2016年度）において、これを継承・発展させる研究を開始している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 28 件)

- ①竹永三男、日露戦後の行旅病人と家族・労働・地域社会、日本史研究、査読有、607号、2013、76-93
- ②佐賀朝、居留地付き遊郭の社会構造、部落問題研究、査読有、203輯、2013、2-47
- ③大日方純夫、首都東京における警視庁の地域支配、部落問題研究、査読有、203輯、2013、48-71
- ④竹永三男、近現代の「行き倒れ」(行旅病人・行旅死亡人)の実態とその救護・取扱からみた日本社会の特質、部落問題研究、査読有、201輯、2012、96-139
- ⑤塚田孝、都市大坂における非人と町方：再考、部落問題研究、査読有、197輯、2011、67-84
- ⑥竹永三男、近代日本における行旅病人・行旅死亡人対応法制の成立と展開、部落問題研究、査読有、196輯、2011、2-60
- ⑦吉田伸之、身分・身分的周縁の比較類型把握、部落問題研究、査読有、195輯、2011、47-51
- ⑧飯田直樹、近代大阪の地域支配と社会構造、部落問題研究、査読有、194輯、2010、2-29
- ⑨塚田孝、一九世紀大坂の非人身分、部落問題研究、査読有、194輯、2010、30-44
- ⑩塚田孝、身分と身分的周縁について、部落問題研究、査読有、193輯、2010、4-38
- ⑪町田哲、近世後期阿波における「他国無切手・胡乱者」統制と四国遍路、部落問題研究、査読有、193輯、2010、39-104
- ⑫藤本清二郎、「城付かわた村」の解体過程、部落問題研究、193輯、2010、105-135
- ⑬森下徹、日本近世における労働社会の構造、歴史評論、721号、2010、56-70
- ⑭三枝暁子、中世における社会集団の編成原理、部落問題研究、査読有、189輯、2009、33-48

[学会発表] (計 14 件)

- ①鈴木良、地域支配構造の発展、第 50 回部落問題研究者全国集会全体会、2012 年 10 月 27 日、同志社女子大学 (京都市上京区)
- ②竹永三男、日露戦後の行旅病人・行旅死亡人と家族・労働・地域社会、日本史研究会 2012 年度大会、2012 年 10 月 13 日、立命館大学 (京都市北区)
- ③竹永三男、近現代の「行き倒れ」(行旅病人・行旅死亡人)の実態とその救護・取扱からみた日本社会の特質、第 49 回部落問題研究者全国集会歴史Ⅱ分科会、2011 年 10 月 23

日、同志社女子大学 (京都市上京区)

- ④塚田孝、都市大坂における非人と町方：再考、第 48 回部落問題研究者全国集会歴史Ⅰ分科会、2010 年 10 月 24 日、同志社女子大学 (京都市上京区)
- ⑤塚田孝、身分と身分的周縁について、第 47 回部落問題研究者全国集会全体会、2009 年 10 月 24 日、立命館大学 (京都市北区)
- ⑥藤本清二郎、「城付かわた村」の解体過程、第 47 回部落問題研究者全国集会歴史Ⅰ分科会、2009 年 10 月 25 日、立命館大学 (京都市北区)
- ⑦町田哲、近世後期阿波における「他国無切手・胡乱者」統制と四国遍路、第 47 回部落問題研究者全国集会歴史Ⅰ分科会、2009 年 10 月 25 日、立命館大学 (京都市北区)
- ⑧飯田直樹、近代大阪の地域支配と社会構造、第 47 回部落問題研究者全国集会歴史Ⅱ分科会、2009 年 10 月 25 日、立命館大学 (京都市北区)

[図書] (計 23 件)

- ①塚田孝、吉田伸之、吉田ゆり子、他、山川出版社、身分的周縁と地域社会、2013、5-41 (塚田孝)、149-198 (吉田ゆり子)、257-296 (吉田伸之)
- ②鈴木良、他、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、地域史と住民・自治体・大学、2012、1-21
- ③藤本清二郎、部落問題研究所、近世身分社会の中間構造、2011、402
- ④塚田孝、吉田伸之、吉田ゆり子、他、山川出版社、別冊都市史研究 伝統都市を比較する、2011、17-24 (吉田伸之)、108-120 (吉田ゆり子)、136-152 (塚田)
- ⑤鈴木良、他、部落問題研究所、部落問題解決過程の研究 第 1 巻 歴史篇、2010、17-55
- ⑥塚田孝、部落問題研究所、近世身分社会の捉え方、2010、100
- ⑦塚田孝、藤本清二郎、町田哲、森下徹、吉田ゆり子、他、清文堂出版、身分的周縁の比較史一法と社会の視点から、2010、3-28 (塚田)、31-59 (森下)、107-150 (町田)、245-291 (藤本)、347-389 (吉田)
- ⑧飯田直樹、佐賀朝、塚田孝、西尾泰広、他、部落問題研究所、近代大阪の地域と社会変動、2009、35-43 (塚田)、83-114 (佐賀)、209-255 (飯田)、257-307 (西尾)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 良 (SUZUKI RYO)

社団法人部落問題研究所・研究員

研究者番号：10072703

(2)研究分担者

竹永 三男 (TAKENAGA MITSUWO)
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：90144683
松尾 寿 (MATSUO HISASHI)
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：50032610

(3)連携研究者

飯田 直樹 (IIDA NAOKI)
公益財団法人大阪市博物館協会・学芸員
研究者番号：10332404
大日方 純夫 (OBINATA SUMIO)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：20160939
佐賀 朝 (SAGA ASHITA)
大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：40319778
塚田 孝 (TSUKADA TAKASHI)
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：60126125
西尾 泰広 (NISHIO YASUHIRO)
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：70469641
藤本清二郎 (FUJIMOTO SEIJIRO)
和歌山大学・教育学部・教授
研究者番号：40127428
町田 哲 (MACHIDA TETSU)
鳴門教育大学・学校教育研究科・准教授
研究者番号：60380135
三枝 暁子 (MIEDA AKIKO)
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：70411139
森下 徹 (MORISHITA TORU)
山口大学・教育学部・教授
研究者番号：90263748
横田 冬彦 (YOKOTA FUYUHIKO)
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：70166883
吉田 伸之 (YOSHIDA NOBUYUKI)
東京大学・名誉教授
研究者番号：40092374
吉田 ゆり子 (YOSHIDA YURIKO)
東京外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：50196888